



園だより

第4号

平成30年6月26日

駿河台大学第一幼稚園
園長 田所 恒子

世界一美味しいカレーライス

「速くできる、手が抜ける、思い通りにできる。……ありがたいことです
が、困ったことに、これはいずれも生きものには合いません。」(『科学者が人間
であること』中村桂子著 岩波新書)

今日、科学や技術が進歩し、流通網も発達する中で、私たちの生活は大変便利
になりました。店舗に行けば季節を問わず野菜が手に入ります。既にカットされ
た物まである時代です。本園では、こんな時代だからこそ、先生や友達と一緒に
野菜を栽培し、収穫し、そして食べる体験を大切にしたいと考えます。

栽培活動は、どんなに手間や時間をかけ、大きくなれと世話をしても、天候や
害虫などの影響を受けます。ましてや園庭での栽培は条件が悪く思い通りに上手
く育つとは限りません。思い通りに行かないことがあることを受け入れなければ
ならないこともあります。だからこそ、栽培の過程でたくさん心を動かす体験を
し、多くのことを学びます。そして、収穫時に子どもたちは栽培物を愛おしいと
思えるくらい、とても大きな喜びを感じていきます。

4月の園だより「どきどき わくわく」でお伝えした年長組のジャガイモ栽培
もその一つです。それまで経験したキヌサヤなどの栽培活動と違い、土の中で育
つため本当に育っているかどうか分かりにくい活動でした。掘ってみるとたく
さんのジャガイモが出てきて大感激です。

そのジャガイモを使って年長児がカレーライスを作り、全園児で食べることに
しました。前日、年長児はゆり組とさくら組に分かれて材料の豚肉・ニンジン・
タマネギ、ジャガイモ(不足分)・カレールウの買い物に出掛けました。何を買
うかは子どもたちが自分で決めたため、各グループの人数は一定ではありません。
私が引率したカレールウを購入する子どもは、両クラスとも5名程でした。

「野菜売り場だからここにはない」「お菓子だから違う」と友達と一緒に陳列場
所を探し、購入するカレールウの箱を見つけていきました。交代で一人一箱ずつ
棚から籠に入れましたが人数より多い箱数であったため、A児は2箱目を取ろう
としました。すると「えっ！」と言う声があがりました。それに気づき思わず手
を引っ込めるA児。ちょっと時間が空き「じゃあさ、ジャンケンしよう」と言う
声があがり、みんなで必要数を買うことができました。数の認知だけでなく、

「えっ！」という表現で自分の考えを表せること、友達の考えを受け入れ自分が
箱を取りたいという気持ちを思い通りにしないでコントロールできること、そし
て友達とみんなで課題解決していく力の育ちを見て取ることができました。これ
らの力は、今日、幼児期に育てることが求められている「非認知能力」といわれ
る力です。また、帰り道に「1、2、3、……10。はい！」と言う声が聞こえてき
ました。見ると人数に比べ購入数の少ない野菜のグループの子どもたちでした。
みんなが持ちたいから10歩ずつ交代することにしたそうです。教師の思い通り
に購入品毎に人数や担当、持ち帰り方を決めれば、早く、簡単に物事が進むで
しょう。しかし今回のように自分たちで考えることによって、子どもたちに育つ力
は比べものにならないくらい大きなものとなります。とてもうれしい姿でした。

22日の調理当日は、さくら組の親睦会と重なってしまい申し訳ございませんで
した。ゆり組・年中組の保護者ボランティアの皆様にご協力いただきながら年長
組の子どもたちは野菜を切りました。そして予定の時間にカレーの香りが幼稚園
中に漂い、みんなで作った「世界一美味しいカレーライス」ができました。来年
はもう少し量を多くと言う声が聞かれるくらい美味しかったです。

「世界一美味しいカレーライス」を食べながら、前述の「速くできる、手が抜
ける、思い通りにできる。……生きものには合いません。」を思い出しました。
大切な子どもだからこそ、急がず、手を掛け、目を掛け、心を掛け、大人の思
い通りにしない、そんな子育てを心がけていきたいと思えます。



種芋から大切に育ててきたジャガイモ。「掘ってしまうの?かわいそう」そんな声も聞かれました。



ボランティアの方についていただき野菜を真剣に切りました。



大きなお鍋で炒めて、煮て…。暑い中ありがとうございました。



保育室に届けられたカレーの大鍋が届けられるとみんな大歓声をあげていました。そしてみんなで「世界一美味しいカレーライス」を食べました。

